

大論 一册。關東秀著。此の書は乾坤の卦、九字十字等の事を解し、一より十までの数字の起源を論辨したるもの。跋に文化丁其夏彭齡撰とあり、同年上梓した。

キヨクセイン 玉泉院 前田利長の夫人。織田信長の五女で、豊臣秀吉の側室淀君及び徳川秀忠の夫人崇徳院と従姉妹である。天正九年越前府中に入興し、利長の薨するに及んで刺髪して玉泉院と號し、高岡から金澤城西丸に移り住んだ。元和九年二月廿四日享年五十を以て逝去。法號玉泉院松巖永壽大姉。

キヨクセインマル 玉泉院丸 金澤城内玉泉院丸は古へ西丸と稱した所で、村井長頼の城代であつた頃は、こゝにその第があつた。慶長十九年前田利長の薨去した後、玉泉院夫人は越中高岡で刺髪して金澤に來り、一時新丸なる横山長知の家に寓したが、その間に西丸に館舎を造營し、八月移徙あり、従うてこの曲輪を玉泉院様丸と稱することになつた。元和九年玉泉院逝去の後館舎を毀ち、空閑の地となつてゐたのを、寛永十一年八月前田利常は京都から歸城し、そこに露地を作り、泉石を布置し樹木を植えた。その後年所を経て、恰も山林の如くであつたが、廢藩の後木を伐り、その石は多く兼六園の明治紀念之標を作るに用ひた。

キヨクセインマルヒムロ 玉泉院丸氷室 藩侯の用に供する氷室を貯藏する室で、玉泉院丸の築山の麓に、穴藏を戸室石で積み立てたものであつた。手木足輕の管理する所で、毎歲嚴冬の頃清潔なる積雪を箱詰として此の室に納め、更に夥多の雪を集めて箱の廻りに詰め置き、六月一日に取り出して藩侯に獻ず

る例であつた。この氷室は前田綱紀の時に初つたもので、其の以前は氷を石川郡倉谷から進献したといふ。

キヨクセンジ 玉泉寺 (一) 沿革—金澤三間道に在つて時宗に關する。山號は光顯山。當寺はもと越中新川郡新庄に在つて淨禪寺といふたが、その社廟に菅公を祀つてあつたから、前田利長は之を崇敬して慶長十六年高岡に移らしめ、利長の室玉泉院は利長薨去の後金澤に歸り、元和三年又之を金澤の泉野(後の成學寺の地)に遷した。是を以て夫人の歿後寛永六年二月朔日に至り、寺號を玉泉寺と改めてその牌所に當て、其阿闍梨を別當とし、法樂の爲に月次連歌を催し、連歌料毎年米十二石を寄進した。その天福宮は寛永九年十一月機失したので假殿となり、正保中利常は更に菅公自畫と稱する神像をこゝに納め、慶安二年雨水遷化し、南桂代りて別當となつた。

諸書に、明曆元年玉泉院夫人の三十三回忌に當つたが、之に先だちて承應三年寺地三千歩を三間道に賜ひ、神慶佛堂を新營し、寺領六十石を寄進したとする。しかし、寛文七年南桂のものした玉泉寺天福宮棟札にその事を言はず、却つて神慶が寛永九年の後假造となり、當年(寛文七)に至つて漸く重修せられたことを載せてゐる。然れば承應の移轉新造のこと疑ふべく、その三間道に移轉等のことは、同棟札に『寛永六己巳年二月朔日有旨重營緣起一廣寺基名改玉泉寺』と記する時に在るのであらう。後明治三年玉泉院の位牌を前田家に收め、四年三月廿六日の火災に堂宇類焼して僅かに現今の假堂を有するのみになつた。

(二) 玉泉寺の施行—藩政中には藩侯一族に大故あり、又は歴代の年忌法會に當り、玉泉寺で施行米を興へる慣習があつた。貧民を門前に集めて員數を調べ、順次門内に入らしめて之を頒つたのである。蓋し元和三年七月十日六日芳春院遠行の際、寶園寺で大法會を行ひ、犀川・淺野川で施行したのが濫觴と思はれるが、之を玉泉寺で行ふ例になつたことは、改作所舊記に、寛文九年九月乞食御數の爲、犀川は玉泉寺、淺野川は東本願寺末寺で施粥したのを初見とし、その玉泉寺のみとなつた事は、寶曆六年五月八・九日松雲公三十三回忌の爲、こゝで施行したのが初かも知れない。

キヨクセンジ 玉泉寺 石川郡八幡の民家の北方に玉泉寺屋敷の遺名を存する。白山宮莊嚴講中記録貞治二年四月廿五日の條に玉泉坊貞運があるのは是であらう。

キヨクセンジ 玉泉寺 奥至郡曹洞宗總持寺山内に在つて、同塔頭妙高庵に屬してゐた。慶長十五年大透圭徐の建立に係る。今は無い。

キヨクソウジ 玉蔵寺 羽咋郡波波なる藤懸社の社僧で、眞言宗に屬したが、明治元年神佛混淆禁止の後復歸した。能登名跡志に、『波波村に玉蔵寺と云眞言寺あり。十五社權現の社有。』とある。

キヨクソウリヨウチン 玉聖良珍 加賀曹洞宗宗徳寺の開山。相模の人。幼にして出家し、諸方を參歴して善老を訪ひ、永澤寺に至り普濟に謁し、止つて之に師事すること二年にして信印を付せられ、總持寺に出世し、永澤寺に移り、永享四年龍泉寺に主となつた。次いで加賀の信徒龍谷寺を築いて之に居らしめ、後に宗徳寺と改めた。明應七年八月寂。

キヨクダイイン 玉靈院 大聖寺藩主第四代前田利章の女で、前田吉徳に子養せられ、盛岡侯南部信貞の室となつた弓姫の法號。詳しくは玉泉院淨觀宗恩大姉。

キヨクテンノイツミ 玉殿泉 白山大女匠から北龍馬場に向かうて下る所の、今御手水鉢といふもの、ことである。白山記に火、御子、峰のことを叙した次に、『從其下沙峰下、七與下畢、有大磐石、泉水、名玉殿、泉雖水勢不淺、參上人數千人雖汲之水不失、大雨雖下其水不增。』と見える。

キヨクリユウジ 玉龍寺 金澤六斗林に在つて、大船山と號し、曹洞宗に屬する。永正十一年桂盛聖芳が尾張前田山に創立する所で、寺號は開基僧前田佐渡の先祖興十郎の法名玉龍院一翁源機居士に採る。桂盛は天文十五年八月廿五日寂。その後越中守山・富山・加賀小松を経て、金澤法船寺町に移り、慶安元年今の寺地を受けた。塔頭高田寺は天文三年玉龍寺二代材長の創立であつたが、寶曆九